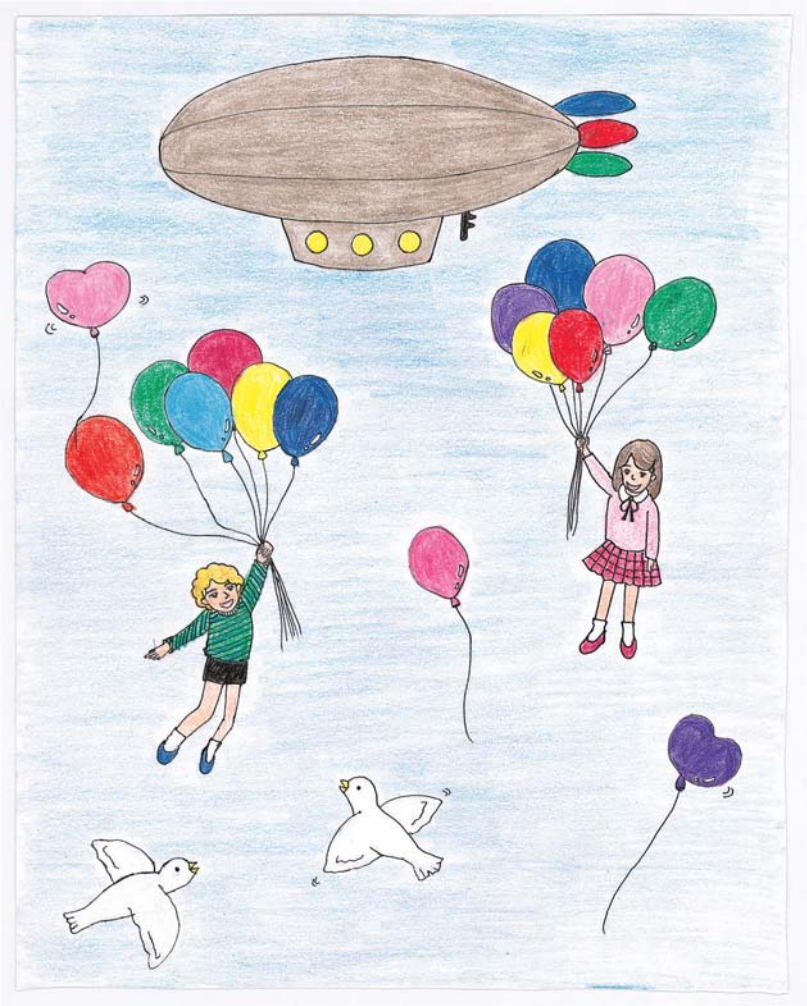
外国からの子どもたちと共に

＜母国の教育事情＞



外国人児童生徒受入体制整備研究会

はじめに

近年、国際化の進展に伴い、永住外国人のほか、就労等の目的で日本で生活する外国人の方々が年々増加しており、その数は全国では２００万人を超えています。また、我が国が進めている経済連携により、今後、外国人労働者のさらなる流入が予想されます。

このような現況に伴い、外国人児童生徒の増加についても国内の多くの地域から報告されています。

我が国では、在留する外国人がその子どもを公立の小中学校へ入学を希望する場合には、日本人のこどもと同様に無償の教育が受けられる機会を保障しています。そのため、都道府県・市町村教育委員会や学校で外国人児童生徒をスムーズに受入られるような体制の整備が急がれているところです。

本書は、外国人児童生徒が母国でどのような教育制度、生活習慣の中で生活してきたか等を理解する一助としてまとめた資料です。今まで、日本と母国との教育制度、教育内容及び生活習慣の違いを知らずに指導にあたり、不適応を起こしてしまった児童生徒も見られました。本書を活用することで、より温かく、より確かに、より具体的な指導が期待されます。

また、外国人児童生徒に対する指導だけでなく、受入学級の子ども達と共に進める「国際理解教育」としても活用することができます。外国人児童生徒の指導に直接あたる先生方をはじめ、関係の方々が各国の教育事情の理解をさらに深めるために活用いただければと思います。

最後に、本書は別途掲載した参考文献の他、実際にその国で生活した方々からの経験等も参考にしながら編集したものです。同じ国内でも地域により若干、事情が異なる場合があることをご理解いただきたいと思います。

外国人児童生徒受入体制整備研究会

目　　次

はじめに

（ア行）
１．アイルランド ･･･1
２．アフガニスタン・イスラム共和国 ･････････････････････････････････4
３．アメリカ合衆国 ･･･6
４．アルゼンチン共和国 ･･･11
５．イタリア共和国 ･･･16
６．イラン・イスラム共和国 ･･･22
７．インド ･･･26
８．インドネシア共和国 ･･･30
９．ウガンダ共和国 ･･･36
10．ウクライナ ･･･39
11．オーストラリア連邦 ･･･41
12．オランダ王国 ･･･48

（カ行）
13．ガーナ共和国 ･･･51
14．カナダ ･･･53
15．カンボジア王国 ･･･57
16．グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国 ･･････････････････60
17．コスタリカ共和国 ･･･64
18．コロンビア共和国 ･･･69

（サ行）
19．サウジアラビア王国 ･･･73
20．シンガポール共和国 ･･･78
21．スイス連邦 ･･･83
22．スウェーデン王国 ･･･87
23．スペイン ･･･89
24．スリランカ民主社会主義共和国 ･･･････････････････････････････････94

（タ行）

25．タイ王国 ･･･99
26．大韓民国 ･･･104
27．チリ共和国 ･･･110
28．ドイツ連邦共和国 ･･･115

（ナ行）

29．ナイジェリア連邦共和国 ･･･119
30．ネパール連邦民主共和国 ･･･121

（ハ行）

31．パキスタンイスラム共和国 ･････････････････････････････････････125
32．バングラディシュ人民共和国 ･････････････････････････････････････128
33．フィリピン共和国 ･･･131
34．ブラジル連邦共和国 ･･･137
35．フランス共和国 ･･･143
36．ベトナム社会主義共和国 ･･･146
37．ペルー共和国 ･･･151
38．ベルギー王国 ･･･156
39．ポーランド共和国 ･･･159
40．ボリビア共和国 ･･･162

（マ行）

41．マレーシア ･･･166
42．南アフリカ共和国 ･･･169
43．メキシコ合衆国 ･･･171

（ラ行）

44．ラオス人民共和国 ･･･175
45．ルーマニア ･･･178

千葉県庁教育委員会ＨＰでもデータをご覧になることができます。
千葉県庁→千葉県教育委員会トップページ→外国人児童生徒受入
http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/gaikokujin/index.html

<table>
<tr><th colspan="2">アイルランド</th><th colspan="2">国の概要</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="10">
緑はアイルランドのカトリック教徒を、オレンジ色はプロテスタント教徒を表し、白はカトリックとプロテスタントとの平和を示している。また、別に、緑は古い要素を、オレンジは新しい要素を、白は二つの友情を示している。

独立：1949/4/18 英国より
国連加盟：1955/12/14
政体：共和制</td><td>首都</td><td>ダブリン</td></tr>
<tr><td>国土</td><td>面積 7 万㎢（北海道とほぼ同じ）
アイルランド島の北東部を除く大部分を占めている。北東部はイギリス領北アイルランドで、セントジョーンズ海峡を隔ててイギリス本土と接している。
地形は平均高度が 100～300m の丘陵地で、多くの河川が流れ、約 800 もの湖沼が散在し、風光明媚な自然を形作っている。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>420 万人</td></tr>
<tr><td>主要言語</td><td>英語（公用語）、アイルランド語（公用語）</td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>ユーロ</td></tr>
<tr><td>気候</td><td>メキシコ湾流の影響で高緯度にもかかわらず比較的温暖であり、冬の降雪もほとんどみられない。しかし、年間を通じて晴天は少なく、ことに冬は曇天ないし雨模様の日が続く。雨量は偏西風の影響を受けて西部に多く、年間 1,000mm を越える。</td></tr>
<tr><td>民族</td><td>ケルト系アイルランド人 97%</td></tr>
<tr><td>宗教</td><td>カトリック 92%、アイルランド教会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育制度の概要</td><td>学校体系</td><td colspan="2">・初等教育 5 年（6 歳～12 歳）、中等教育（前期課程 12 歳～15 歳）、中等教育（後期課程 15 歳～18 歳）、高等教育（大学、科学技術カレッジ、教員養成カレッジ）、19 歳～となっている。</td></tr>
<tr><td>義務教育</td><td colspan="2">・6 歳から 16 歳までの 9 年間であるが、ほとんどの子どもは 6 歳以前の幼児学級から就学している。学校予算の大部分は国と地方からの補助金で賄われている。
・初等教育の大多数の子どもたちは、教区の教会（カトリック、プロテスタントなど）が運営するミッションスクール（国立）に通う。それぞれの学校が、親、教師、地域共同体の代表者を含む管理委員会によって監督されている。
・中等教育は中等学校、職業学校、コミュニティ・スクール、コンプリヘンシブ・スクール（総合中等学校）で行われてい</td></tr>
</table>

		るが、中等教育を受けている生徒の 60% が中等学校へ通っている。中等学校は民間経営（私学）であり、大多数は修道会が運営、残りは学校法人や個人が経営している。ほとんどの中等学校は教育費は無料である。職業学校には中等教育を受けている生徒の 25% が通学しており、学校は職業教育委員会によって運営されている。 ・その年の 9 月 1 日までに満 6 歳になる者は、その年の 9 月 1 日に義務教育の第 1 学年に入学する。 ・授業料は無料である。
	日本と比較した 教育課程上の特徴	・初等教育は 3 学期制で、1 学期は 9 月～12 月、2 学期は 1 月～4 月、3 学期は 4 月～6 月となっている。 ・初等教育のカリキュラムは教育課程評議会が定め、教育省の検査官チームが各学校において教育規定が正しく運営されているかを監督する。 ・初等教育の教科は数学、国語、アイルランド語、歴史、地理、芸術、音楽、技術、社会と環境、体育である。休憩、集会時間を含んで学習時間は 5 時間 40 分で、就学日数は 1 年間で 183 日以上である。 ・中等教育では 2 学期制をとり、1 学期は 9 月～12 月、2 学期は 1 月～5 月となっている。 ・中等教育の教科は、アイルランド語、国語、フランス語（ドイツ語・スペイン語）、数学、科学（物理学、化学、生物学）、歴史、地理、宗教教育、社会、政治教育、体育、音楽、他に 2 つの選択科目がある。
	義務教育後の教育	・義務教育終了後、後期課程の中等教育を受ける者が多数を占める。 ・後期課程が終了する時点で、国内統一試験を受け、高等教育への資格を取得する。この資格の有無、成績によって大学進学や就職に影響が出るため、重要視されている。 ・高等教育への進学者はほぼ半数で、そのほぼ 62% が学位取得課程に在籍している。高等教育は総合大学、科学技術カレッジ、教員養成カレッジで実施、ほとんどが国の予算で賄われている。学校は自治を有している。近年、私立カレッジがいくつか開校し、ビジネス関連コースを提供している。
	就学前教育	・義務ではないが、4 歳になると初等学校付設の幼児学級に入ることができる。対象はジュニアインファントが 4～5 歳、

		シニアインファントが 5～6 歳である。 ・私立のモンテッソリー学校や養護学校などもある。
学校生活	休業期間	・イースターとクリスマスに休暇がある。
	教育内容の差異	・宿題は毎日出される。
	給食	・給食はなく、原則として弁当持参。ごく一部の学校には食堂がある。
	校則	・服装は、ほとんどが制服着用であるが、公立校の一部は自由となっている。 ・通学は、低学年の場合。親などが送迎するが、高学年になるとバスや電車などを利用する。
生活習慣等	食生活	・主食のじゃがいもをはじめ、穀類、羊、牛肉を使った素朴で温かみのある料理をベースとしながら、海の幸も豊富である。代表的な料理としては、ソーダブレッド、アイリッシュシチュー、シェパーズパイ、アイリッシュクリーム・チーズケーキがある。

＜参考資料＞

・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
・アイルランドの社会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・グローブ
・世界の料理アイルランド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・旭化成ホームプロダクツ

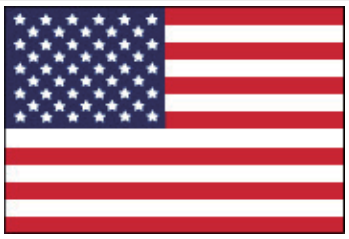
<table>
<tr><td colspan="2">アフガニスタン・イスラム共和国</td><td rowspan="10">国の概要</td><td>首都</td><td>カブール</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="9">
黒は外国に支配されていた暗い過去、赤は闘いで流された血、緑は独立・平和・イスラム教を表している。

独立：1919/6/19 英国より
国連加盟：1946/11/19
政体：共和制</td><td>国土</td><td>面積　65 万 2,225 ㎢（日本の 1.7 倍）
6 ヵ国に囲まれた内陸国で、南部は砂漠、東部、中部、北部はヒンズークシュ山脈に連なる山岳地帯となっている。国内を流れるいくつかの川はいずれも砂漠のなかに消える内陸川で、東流するカブール川だけがインダス川に合流して海に注ぐ。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>2,209 万人(2006 年)</td></tr>
<tr><td>言語</td><td>パシュトゥ語（公用語）、ダリ語（公用語）</td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>アフガニー</td></tr>
<tr><td>気候</td><td>国土の大部分は乾燥した大陸性高原気候で、年間を通じて日本 10 分の 1 程度の雨量、春秋に南部と中央部に 1 年で一番多く降り、北部は南部と中央部よりは少ない。寒暑の差が大きく夏は 40℃以上、冬は－15℃以下まで下がることもある。6～9 月は強風が吹きつけ、俗に「風の 120 日」とよばれるほどである。北部山岳地帯は冷帯に属している。</td></tr>
<tr><td>民族</td><td>パシュトゥン人 44%、タジク人 25%、ウズベク人 8%、ハザラ人 10%</td></tr>
<tr><td>宗教</td><td>イスラム教スンニ派 84%、イスラム教シーア派 15%</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育制度の概要</td><td>日本と比較した教育課程上の特徴</td><td colspan="3">・長年に及んだ内戦によって、学校施設ばかりでなく、教育施設そのものが破壊されてしまい、屋根のない教室又はテントで、強い日差しに照り付けられながら、地面にすわって授業を受ける子どもたちが多い。
・1 日 3～4 交代で授業を行っている学校がたくさんある。</td></tr>
<tr><td></td><td>言葉の指導面の留意事項</td><td colspan="3">・日本語の学習では、格助詞の使い方ができないことがある。</td></tr>
</table>

生活習慣等	食生活	・食事のときは、居間兼ダイニングである絨毯を敷かれた部屋にビニールの食卓布を敷き、その上に料理をおいて、囲んで手とスプーン・フォークで食べる。 ・朝食はナン（ジャムやクリーム）と紅茶もしくはミルク、または緑茶、ゆで卵等、昼食は、肉（ラム・鶏）、バターライス、ナン、野菜サラダ等、夕食は魚の唐揚げ、肉の煮込み、ナン等を食べる。 ・ナンはインドと違って、どっしりと重くて歯ごたえがある。料理は、肉じゃがのようなコールマ、羊肉や牛肉を香辛料につけておき長い鉄串にさして焼いたカバブ、長粒米のピラフであるパラウがある。
	衣服住居の違い	・女性が伝統的に着用しているのが、頭からつま先まですっぽりと覆ってしまうブルカで、目の部分が網目になっているので、中から外が見えるが、外から女性の顔は見えないようになっている。タリバン政権下では、女性はブルカを着ることを義務付けられていたが、今でも以前の名残で着ている女性たちがいる。 ・現在は、スカーフだけのところ、髪の毛と首を隠せばいいというところ、目以外は全部隠すところなどさまざまである。 ・日干しレンガの住まいが一般的である。鉄筋コンクリートの建物が比較的多い首都カブールでも、一般住民住まいの多くは屋根は木造で、レンガを積み、壁を泥で固めたようなものもある。

＜参考資料＞

・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
・日本語教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子

<table>
<tr><th>アメリカ合衆国</th><th colspan="3"></th></tr>
<tr><td rowspan="9"> 
「星状旗」と呼ばれ、星は天を、赤は母国イギリスを、赤地を横切る白い条は母国イギリスからの独立を表している。13 の条は独立したときの州の数を、50 の星は現在の州の数を表している。

独立：1776/7/4 英国より
国連加盟：1945/10/24
政体：連邦共和制</td><td rowspan="9">国の概要</td><td>首都</td><td>ワシントンD.C.</td></tr>
<tr><td>国土</td><td>面積　962 万 9,000 ㎢（日本の約 25 倍）
北米大陸の中央部を占め、本土だけでも東西 4,000 ㎞、南北 2,000 ㎞の広がりを持つ。東部のアパラチア山系、西部のロッキー及びシエラネバダ山系、その中間に横たわるミシシッピー川流域の中央平原に大別される。北部には氷河期の遺物である五大湖が存在する。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>3 億 100 万人</td></tr>
<tr><td>言語</td><td>英語</td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>米ドル</td></tr>
<tr><td>気候</td><td>全般には温帯気候に属しているが、中北部は亜寒帯、フロリダ半島は亜熱帯、西部の一部には極端な乾燥気候がみられる。東海岸は夏は高温多湿、冬は低温乾燥の四季がはっきりした気候を示す。西海岸の北部は温暖湿潤気候、南部は地中海性気候である。中央平原は西へ進むにつれて降水量が少なくなる。</td></tr>
<tr><td>民族</td><td>ヨーロッパ系 71%、アフリカ系 12%、ヒスパニック 9%、ネイティブ・アメリカン</td></tr>
<tr><td>宗教</td><td>プロテスタント 56%、カトリック 28%、ユダヤ教 2%</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育制度の概要</td><td>学校体系</td><td colspan="3">・全国共通の教育制度はない。州や学区によって制度が異なっている。
<table><tr><th>学校制度</th><th>州</th></tr><tr><td>1・5・3・4・2（4）</td><td>ワシントン、アリゾナ、アーカンソー</td></tr><tr><td>6・4・6・2（4）</td><td>バーモント</td></tr><tr><td>7・3・4</td><td>バージニア</td></tr><tr><td>6・3・4</td><td>ノースカロライナ、メリーランド</td></tr><tr><td>5・3・4・4</td><td>ネバダ、ニューハンプシャー、コロラド、オレゴン、ロードアイランド、ミシガン</td></tr><tr><td>1・5・3・4</td><td>テキサス、フロリダ</td></tr><tr><td>1・4・4・2（4）</td><td>コネチカット</td></tr></table></td></tr>
</table>

1・3・2・3・4	ケンタッキー
5（6）・6（7）・2（4）	カリフォルニア
7・2・4・4	オハイオ
9・4・2（4）	イリノイ
5・7・4	アラバマ
6・2・4・4	アラスカ
6・3・3・4	アイダホ、ユタ
8・4・任意	ルイジアナ、ミネソタ
8・4・3・2（4）	メイン
8・6	ミシシッピー
4・4・4・2（4）	マサチューセッツ

義務教育

・州によって違うが、9 年間としている州が多い。学年ではなく、年齢で定めている州が多い。
・教科書なども学校で購入して配布し、卒業後は後輩たちが受け継いで使っていくので、個人で買うものはほとんどない。
・高校まで義務教育なので、高校受験はない。

年齢	州
5 歳～16 歳	ノースカロライナ、アラバマ
5 歳～17 歳	アーカンソー、テキサス
5 歳～18 歳	フロリダ、アイダホ、オハイオ、コネチカット、コロンビア、バージニア、ワシントン、
6 歳～16 歳	マサチューセッツ、ミシガン、ミシシッピー、ユタ、ロードアイランド、アリゾナ、ケンタッキー、ニューハンプシャー、バーモント
6 歳～18 歳	アラスカ
7 歳～16 歳	コロラド
7 歳～17 歳	メイン、ルイジアナ、イリノイ
7 歳～18 歳	ミネソタ、インディアナ
幼稚園～12 年生	メリーランド、カリフォルニア
1 年生～12 年生	オレゴン、ネバダ

<table>
<tr><td></td><td>日本と比較した
教育課程上の特徴</td><td>・学校年度は州によって違うが 8 月末か 9 月～6 月までが多い。
<table>
<tr><th>学校年度</th><th>州</th></tr>
<tr><td>7 月～6 月</td><td>コロラド、アラスカ</td></tr>
<tr><td>8 月～5 月</td><td>インディアナ、ルイジアナ、ケンタッキー
アリゾナ、ミシシッピー、フロリダ、テキサス、アイダホ、アラバマ</td></tr>
<tr><td>8 月～6 月</td><td>ネバダ、メリーランド、バーモント、ニューハンプシャー、バージニア、オハイオ、アーカンソー、ノースカロライナ、ロードアイランド</td></tr>
<tr><td>9 月～6 月</td><td>コネチカット、コロンビア、ワシントン、マサチューセッツ、ミシガン、ユタ、メイン、カリフォルニア、オレゴン</td></tr>
</table>
・学期制としては、2 学期制をとるところが多いが、特に決めていない州もある。
<table>
<tr><th>学期制</th><th>州</th></tr>
<tr><td>1 学期制</td><td>ミシガン</td></tr>
<tr><td>2 学期制</td><td>インディアナ、アリゾナ、ミシシッピー、テキサス、メリーランド、バージニア、アーカンソー、コネチカット、マサチューセッツ、ユタ</td></tr>
<tr><td>2 か 4 学期制</td><td>オハイオ、カリフォルニア、ロードアイランド、アイダホ</td></tr>
<tr><td>3 学期制</td><td>ワシントン</td></tr>
<tr><td>3 か 4 学期制</td><td>オレゴン、メイン</td></tr>
<tr><td>4 学期制</td><td>フロリダ、ノースカロライナ、アラスカ、アラバマ</td></tr>
</table>
・教育内容も地域によって違いがある。教科書を選ぶ時も園学校の教師が自分の使いやすいと思ったものを選んで購入するので、学校間でも教育内容にも違いがある。</td></tr>
<tr><td></td><td>義務教育後の教育</td><td>・2 年の短大（カレッジ）か 4 年の大学（ユニバーシティ）に進学する。</td></tr>
<tr><td></td><td>就学前教育</td><td>・就学前教育は義務でない州が多い。0 歳からの託児所（デイケア）、3 歳くらいからの保育園は有料である。幼稚園は公立（半日）無料、私立は有料である。</td></tr>
</table>

		・3 歳までは、親の元で必要に応じて、ベビーシッターを雇う家庭もある。
	その他	・日本のように塾や家庭教師で勉強するケースも少なく、むしろ、芸術や音楽、スポーツといった活動にお金を使う。
学校生活	休業期間	・夏休みは 6 月初め～8 月末頃までである。
	学級担任制、 教科担任制等	・小学校は学級担任制、中・高校は教科担任制である。
	飛び級、落第の有無	・飛び級制度がある。
	教育内容の差異	・水泳指導はない。
	学校行事の特徴	・日本の運動会とは異なり、スポーツデーがあり、保護者は出席しない。
	給食	・州によって異なるが、ほとんどの場合、カフェテラス方式の給食である。カフェテラス方式でないところでも、複数の献立から食べたいものを選べるセレクト方式になっている。給食を食べるかどうかは、個人の選択に委ねられている。献立はファーストフード系のメニューがほとんどで、飲み物もコーラ・ジュース・チョコレートドリンクなどで、日本とは大きく異なる。
	チャイムや号令	・授業の切れ目にブザーが鳴らされる。
	教室における行動様式等の違い	・毎日宿題がある。
	校則	・制服など、校則は厳しい。
	保護者の授業参観、保護者会、ＰＴＡ	・授業参観日はない。 ・PTA はあるが、ミーティングは夜のみ行う。
	子どもの一日	・通学は、スクールバスか自家用車で送ってもらう。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・日本語の学習では、「ウ」の発音が巻き舌になってしまうことがある。
	指による数え方 計算方法の違い	・人指し指から数える。
	食生活	・多民族なので、何でもあるが、肉製品・乳製品が多い。主食はパンやシリアルで、肉中心の料理が多い。朝食はシリアル、パンに紅茶やコーヒー、昼食はハンバーガーやピザ、タコス、夕食はチキンやステーキなどの肉類を食べる。食事の特徴は、①量が多い、②甘い、③野菜が少ない、④冷凍食品が充実していることである。

	衣服住居の違い	・レンガ、ブロック造りの家が多い。木の家もある。 ・浴室とトイレは一緒の場合が多い。
	交通規則の違い	・車は右側通行である。

＜参考資料＞

・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
・教育事情あの国この国・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全教研
・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子
・日本語指導教員より
・海外日本人学校勤務経験教員より

<table>
<tr><td colspan="2">アルゼンチン共和国</td><td rowspan="10">国の概要</td><td>首都</td><td>ブエノス・アイレス</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="9">
革命軍の軍服の色からできていて、中央の太陽は「5月の太陽」と呼ばれている。

独立：1816/7/9
スペインより
国連加盟：1945/10/24
政体：代表共和連邦制</td><td>国土</td><td>面積　376 万 1,274 ㎢（日本の 7.3 倍）
地形的には、北部のグランチャコ（森林地帯）、ラプラタ川流域のパンパ（温帯草原）、南部の乾燥したパタゴニア、西部国境の急峻なアンデス山系の 4 つに大別される。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>3,700 万人</td></tr>
<tr><td>言語</td><td>スペイン語（公用語）</td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>ペソ</td></tr>
<tr><td>気候</td><td>北部は亜熱帯気候で特に高温多湿となる。パンパの平原は温帯で冬季にも降雨があり、大変快適な気候である。内陸部および南部に進むにつれて乾燥が激しくなり、パタゴニアの一部には砂漠気候もみられる。また南部は冬季（4～9 月）西からの強風が吹き、寒さが厳しい。</td></tr>
<tr><td>民族</td><td>ヨーロッパ系（スペイン人、イタリア人）97%、インディオ系 3%、メスティソ 3%</td></tr>
<tr><td>宗教</td><td>カトリック 92%、プロテスタント 2%、ユダヤ教 2%</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育制度の概要</td><td>学校体系</td><td colspan="3">・幼稚園最終年（5 歳）、小学校（6 歳～13 歳）、中学校・高等学校（14 歳～18 歳）である。</td></tr>
<tr><td>義務教育</td><td colspan="3">・初等教育の 10 年間(幼稚園最終年の 5 歳から 14 歳)が義務教育期間である。しかしながら、ヴェノス・アイレス州をはじめとするいくつかの州では、依然として旧制度を維持している学校も多い。現政権は教育制度の改革を進めるため、教育基本法改正案を国会に提出（2006 年 12 月 5 日上院通過、下院送付）、これが成立すれば、将来の義務教育制度は、幼稚園最終年（5 歳）、小学校（6 歳～13 歳）、中学校・実業学校（14 歳～18 歳）の合計 13 年となる予定である。
・授業料は公立の場合無料であるが、教科書代などは有料である。</td></tr>
<tr><td>日本と比較した
教育課程上の特徴</td><td colspan="3">・学校年度は 3 月 1 日に始まり 12 月 15 日で終了する。
・3 学期制をとっており、1 学期は 3 月 1 日～5 月 31 日、2 学期は 6 月 1 日～8 月 31 日、3 学期は 9 月 1 日～12 月 15 日となっている。</td></tr>
</table>

		・多くの学校は午前・午後の 2 部制をとっている。教師もどちらか一方の担当である。 ・授業の 1 単位時間は 40～45 分である。 ・倫理の時間がある。また、私立学校では、宗教の時間がある。 ・音楽や家庭科、図工といった教科が単独で行われず、合同で 1 カ月に 3・4 時間行われる。
	義務教育後の教育	・中学校・実業学校への進学率は、都市部で 80%程度であるが、卒業できるのは、60%程度ともいわれている。
	就学前教育	・共働き家庭では保育園がよく利用されている。 ・幼稚園（3～5 歳）があり、幼稚園の最終年の 5 歳から義務教育期間が開始になる。公立は無料である。
学校生活	休業期間	・夏季休業は、1 月 1 日～2 月 15 日で、7 月に 2 週間の冬季休業がある。冬季休業中は宿題を出すこともあるが、夏季休業中はださない。 ・学年は 3 月から始まる。
	学級担任制、 教科担任制等	・小学校 1～5 年は 1 人の担任が全ての教科を担当する。 ・小学校 6・7 年になると、2 人の担任が教科を半分ずつ受け持つ。 ・中学校は完全な教科担任制であるが、CELADORM, PRECEPTERと呼ばれるクラスの世話係が、毎日の出欠や行事の引率等の世話をする。彼らは教科を持たず、各教科担任が出した評定に基づいて通信簿を作成する。
	飛び級、落第の有無	・飛び級は稀であるが、試験にパスすれば可能性はある。この場合、飛び級するか否かは保護者が決定する。 ・小学校 1 年生は落第がないが、2 年生からは、テストに合格しなければ落第となるので、自主的に勉強してくる。 夏季休業の始めに追試があり、それにも通らない生徒のために休業の終わりに追試がある。これにも通らないと落第が決定する。
	教育内容の差異	・体育はバレーボール、サッカー、水泳、ラグビーなどの実技がある。 ・小学校の理科の実験の学習は教室で行える簡単で安全な実験を行う程度である。中学校では日本程度に行っている。 ・音楽は理論ばかりの授業で、歌を歌ったり、楽器を演奏したりすることはほとんどない。

		・　割算の記号は÷ではなく、パーセントを表す記号の%の。が、（点）になる。 （例）日本・・・・・・・30÷5＝6 　　アルゼンチン・・・30%5＝6 筆算の方法が異なる。 日本　　6 　　5） アルゼンチン　30｜5 　　6 ・外国語の授業としては、英語またはポルトガル語がある。 ・学校全体としてのクラブ活動はないが、放課後を利用して希望者にコンピュータ、サッカー、ハンドボール等を行う学校が増えている。
	学校行事の特徴	・独立記念日等にセレモニーを行う。セレモニー以外の学校行事（文化祭、体育大会等）は自由参加で、その多くは学年末に行われる。学校行事で選抜され、地区大会、全国大会等と進むものもある。 ・修学旅行は小学校・中学校の最終学年にある PTA の主催のものもあれば、子どもたちが率先して計画を立てて実行する修学旅行もある。 ・授業の一環としての社会科見学等でも子どもを郊外へ連れ出す場合には、保護者の承諾書及び宣誓書が必要である。
	給食	・2 部制の学校では、家で昼食をとるのが一般的で、給食設備の整った学校も増えているが、給食をとるか否かは自由である。 ・給食はなく、校内に売店があり、自由に飲んだり、食べたりすることができる学校もある。
	チャイムや号令	・チャイムは全ての授業の切れ目に鳴らされる。 ・号令はセレモニーの時以外はない。
	教室における行動様式等の違い	・宿題は、社会、理科等の調べ物、数学の問題等が出される。
	校則	・公立の学校の制服は、白衣のようなもので、大体の学校には制服がある。私立学校では制服を着用するが、日本と同じように各学校によって異なる。 ・長髪の男子は必ず髪を束ねなければならない。
	保護者の授業参観、保護者会、ＰＴＡ	・年に 1 回授業参観（保護者に知ってもらいたいテーマの学習）、年に数回行われる行事にも出席する。教師の空き時間が黒板に書いてあり、保護者は空き時間に教師と話すことがで

		きる。 ・COOPELADORAと呼ばれる保護者の集まりがあり、バザーの開催、修学旅行の実行等がこの会により行われる。 ・各学期に 1 回か 1 年に 2 回、学級懇談会が行われる。 ・家庭訪問や授業参観はなく、問題があった時にだけ、親が学校に呼び出される学校もある。
	子どもの一日	・公立学校の場合、6 時半か 7 時起床し、午前中は学校に行き、帰宅して昼食をとる。昼寝（又は休息）の後、宿題をしてから、テレビを見たり、友人と遊んだりする。9 時頃、夕食をとり、11 時頃就寝ということが多い。 ・外出時の安全指導により、小学校高学年になるまで、子どもだけで外出することは、通常許されない。したがって、手伝いの中でも買物の手伝いは小学校高学年まではしない。
	その他	・学校でも掃除の人を雇っているので、掃除を自分でしない場合が多い。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別ができない、「シ」と「チ」の区別ができない、「ヤ行」と「ジャ行」が混同する、「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	・特にない。
	指による数の数え方 計算方法の違い	・親指から順に小指に向けて数を 1・2・3・4・5 と数える。 ・おつりは小さい額の紙幣から渡される。
	食生活	・昼食は 1 時以降、夕食は 8 時半以降、夕食会が 10 時以降ということも珍しくない。 ・弁当というと大抵はサンドイッチ等の手軽なものばかりで、中にはスナック菓子を昼食にする場合がある。 ・香辛料を使うことはまれなので、カレーライスが嫌いな場合が多い。 ・グアラニー族由来のマテ茶を飲む習慣がある。
	衣服住居の違い	・　女の子が誕生すると必ずといっていいほど、ピアスを開ける。「女性である証」として、母親からの大切な贈り物だと思っている。小さな頃の赤ちゃんは、赤ちゃんによって男の子か女の子か見分けが付かないこともあり、ピアスをしていると女の子であるということがわかるようである。 ・1 日の気温の変化が激しいため、長袖の人と半袖の人が同時にいることは珍しくない。 ・家はレンガ、コンクリート、石で出来ている。アパートに

		は呼出装置、解錠装置等がついていることが多い。 ・室内は土足で、浴室とトイレは一緒である。
	交通規則の違い	・車は右側通行である。 ・信号は 3 色（緑・黄色・赤）で、赤になる前にも黄色になる。
	その他	・ティッシュペーパーは使わず、ハンカチで鼻をかむ。 ・「ベシート」という挨拶をとても大切にしている。異性、同性を問わず、頬と頬を合わせてチュという音をたてる。 ・日本については、高度な産業技術を連想する生徒が多く、アルゼンチンに住む日系人の影響もあってか、日本人は勤勉で、責任感が強いという印象を持っている。

＜参考資料＞

・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 外務省
・日本語教材「にほんごをまなぼう」指導書資料・・・・・・・・・・・・・・・文科省
・ブエノス・アイレス日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・海外子女教育財団
・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
・ジュニア世界国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子
・日系社会青年ボランティアより

<table>
<tr><td colspan="2">イタリア共和国</td><td rowspan="9">国の概要</td><td>首都</td><td>ローマ</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="8">

独立：1861/3/17
イタリア王国
国連加盟：1955/12/14
政体：共和制</td><td>国土</td><td>面積　30 万 1,000 ㎢（日本の 80%）
地中海に伸びる長靴状のイタリア半島と周辺のシチリア島、サルジニア島からなる。北部はアルプス山脈、半島部はアペニン山脈が縦走し、南半分は火山帯にまたがり、ベスビオ、ストロンボリ、エトナなどの火山がある。平野部は、国土の 20%で、ポー川流域のロンバルディア平原、アルノ川流域のトスカナ平野などがある。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>5,810 万人</td></tr>
<tr><td>言語</td><td>イタリア語（公用語）</td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>ユーロ</td></tr>
<tr><td>気候</td><td>北部は大陸性気候に近く、南下するにつれて温暖乾燥の地中海性気候の特徴が強まる。アルプスが自然防壁となり、全般に温暖である。</td></tr>
<tr><td>民族</td><td>イタリア人 98%</td></tr>
<tr><td>宗教</td><td>カトリックがほとんど、プロテスタント
ユダヤ教、イスラム教</td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育制度の概要</td><td>学校体系</td><td colspan="3">・小学校 5 年(6 歳～11 歳)、中学校 3 年（12 歳～14 歳)、高校 5 年(15 歳～19 歳)、大学 3 年となっている。</td></tr>
<tr><td>義務教育</td><td colspan="3">・小学校 1～5 年生、中学校 1～3 年生までの 8 年間である。
・EU 諸国の競争力を高めるために教育改革を進め、将来、義務教育は 18 歳までの教育が権利であり、義務である。
・15 歳から選択分野により修学年数は異なるが(最短 3 年間)、専門・養成校もある。
・授業料は、公立学校の場合、初等学校までは教科書を含め無料であるが、前期中等学校では教科書は有償となる。その他の経費としては、保険料、給食費、スクールバス代などがある。
・障害児にも同等の教育を受ける権利が法律で定められていることから、通常のクラスで受け入れる整備（障害児を補助する教師を別に付けるなど）を学校は求められる。</td></tr>
<tr><td>日本と比較した
教育課程上の特徴</td><td colspan="3">・9 月初中旬～翌年 6 月中下旬が学校年度であるが、州、学校、年によって異なる。始業日は直前にならないと判明しないことがある。</td></tr>
</table>

		・2 学期制を採っており、1 学期は 9 月初中旬～1 月下旬、2 学期は 2 月初旬～6 月中旬である。 ・小学校は週 27 時間の学習義務と、その他に 3 時間の任意授業があり、生徒と保護者の希望により科目を決める。 ・中学校では週 27 時間の学習義務と、その他 6 時間の任意授業がある。 ・昼食を家庭でとる生活習慣から、午後 1 時までは下校する日程が普通であったが、近年、英語教育の導入や保護者の要望から、午後まで授業を実施する学校も増加傾向にある。
	義務教育後の教育	・中学校卒業時に行われる国家試験に合格した者が高校に進むことができる。日本のような入学試験はない。 ・高校は文化系（人文、法律等）・理科系（工業、化学等）・職業系（機械、食品等）の 3 系統に分かれている。 ・高校は単位制で落第もあることから、学業を途中で放棄することも多いので、生徒が学業の系統を途中で変更することが認められている。卒業試験は難しい。 ・大学に関しては、高校終了時に全国一斉に行われる国家試験（卒業試験）に合格していることが入学の条件であり、理系の学部などを除き、別途入学試験は行われない。論文形式の教科統合問題である。 ・高等技術教育（19 歳～就学年度は専攻科目によって異なる）もある。 ・高校・大学ともに中退が多いようである。卒業するのは入学生の半分くらいで、中退した生徒は就職するか、他の専門学校に移る。
	就学前教育	・義務ではないが、0～2 歳児対象の保育園、3～5 歳児が対象の幼稚園がある。国立の幼児学校の授業料は無料で、保険料及び給食費のみを支払う。 ・保育学校では、14～28 名の集団（同年齢の場合も異年齢の場合もある）が作られ、各集団に２名の教員がつき、家庭の状況に応じて、週 5 日あるいは 6 日、1 日 8 時間保育を行う。
	その他	・校区はあるが、希望すれば学区外でも許可される。小学校の５年間は担任の持ち上がりが原則なので、良い学校・教師を求めて学校選びに拍車がかかっている。 ・学校は教育を提供する場所で、躾を徹底させる場所ではないことを社会・保護者ともに理解している。

		・英語教育の導入を推進している。
学校生活	休業期間	・夏季休業は 6 月下旬～8 月下旬の 2～3 カ月間である。 ・冬季休業は 12 月末～1 月 6 日までである。 ・イースター前後に 1 週間のほどの休みがある。
	学級担任制、 教科担任制等	・小学校の 5 年間は、持ち上がりが原則で、小学校 1・2 年生は、教科書がなく、担任の手作り教材で教える。3 年生からは教科毎に担当の教師から使用する教科書の指示があり、各自が購入する。中学校でも教科担任制になり同様に進められる。 ・1 学級 20～25 人で、学年 2～4 学級の学校規模が多い。
	飛び級、落第の有無	・小学校から中学校への進級試験は行われない。 ・中学校終了時にイタリア語、外国語、数学の 3 教科については筆記試験と口述試験が実施される。修了試験は 5 段階で評価され、上位 4 段階が合格となる。合格者は高校入学の基礎条件となり、中学校修了証を授与される。 ・高校の修了試験は全国共通の統一テストが 1 ヵ月にわたって行われる。教育省から 2 問、もう 1 問は校内の委員会で作成し、口頭試験が行われる。 ・テストが頻繁に行われ、成績が悪いと落第する。 ・評価は 4 段階の絶対評価で 2 月と 6 月に保護者が受け取りに行く。 ・飛び級はまれであるが、小学校から実施されている。
	教育内容の差異	・義務教育期間を通して、日本のような学習指導要領はなく、教師の範囲内で学習内容・教科書を選択している。 ・学校の授業は国語、数学、理科、社会、外国語がメインである。 ・近年は、特に外国語教育とコンピュータ教育を積極的に取り入れている。公立小学校の 1 年生に英語とコンピュータが導入された。 ・宗教の授業が設置されているが、近年では選択制度に移行している。 ・技能教科に関してはほとんど行わない。本来は家庭が担うものという考えがある。 ・体育的な活動は地域のクラブで、美術・音楽的な活動は家庭教師の世話になる場合が多い。

		・日本的な部活動はない。 ・ローマ市内の文化系の高校では、科目が 13 あり、中にはラテン語やギリシア語、芸術史といった古典文化を学ぶ教科もある。英語・フランス語の外国語と宗教の選択教科のほかはすべて必修である。
	学校行事の特徴	・大きな学校行事はほとんどない。クリスマス前や学年末に小さな行事があるが、何時間も練習して行わない。 ・入学式や卒業式などの儀式は一切ない。 ・美術館・博物館見学は教科の授業の一環として行われている。 ・体験学習は高学年から 1 週間程度の期間で実施されている。
	給食	・中学校までは給食が出されることが多い。 ・給食はない学校では、その代わりに 10 時頃におやつタイムがあり、サンドイッチなどの給食を食べる子どももいる。
	チャイムや号令	・授業の切れ目にチャイムはある。
	教室における行動様式等の違い	・自分の考えを発表することを重視しており、他人の考えを聞いてそれについて意見を述べ、子どもたちに聞く姿勢と自分の考えを発表する能力がついている。 ・公立の小・中学校には、基本的に制服はない。一部の私立高校で「ステータスシンボル」的に制服の着用を図ろうとする試みがあったようだが、なじまないようである。 ・高学年になるほど宿題の量は多くなる。宿題をやらないと落第になるので、ほとんどの生徒はやっている。
	校則	・通常、文書化された校則や制服はなく、子どもの自主性に任されている。 ・服装や髪型などの校則は一切ない。 ・「躾」を含めて、生活面は「家庭の責任」とされている。
	保護者の授業参観、保護者会、ＰＴＡ	・授業参観はない。 ・PTA という組織はないが、中学校以上には保護者会があり、学校運営に協力している。
	子どもの一日	・8 時 30 分開始で、午後の 3 時頃に帰宅する。小学生は保護者が学校まで送り迎えをする。外出も小学生は一人では法律違反になる。犯罪に巻き込まれやすいことも理由の一つである。 ・午前中だけの学校もあり、午後は各家庭で、各個人で、自分の好きな習い事をする子どもが多い。

		・放課後や休日は、勉強やスポーツ、友人と遊ぶなどと日本の高校生と変わらない。
	その他	・学校に保健室はなく、切り傷等の応急手当はしているが、基本的に具合が悪くなったら家に帰す。 ・校長は 1 校 1 人配置ではなく、一人の校長が一つの区域の幼稚園・小学校を担当する。 ・小・中学校は登校時間が終わると校門は閉じられ、鍵がかけられる。学校の敷地の周囲は鉄柵や塀で囲まれ、教師も子どもも自由に出入りはできない。用事のある保護者は閉められている校門のインターフォンで連絡をとり、やっと中に入れてもらうことができる。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・教授言語はイタリア語である。但し、北部のスイス・フランス国境地域では、ドイツ語、フランス語が使用されることもある。 ・日本語の学習では、「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	・特にない。
	指による数え方 計算方法の違い	・技能面の練習が少ないので、4 年生でも指を使って計算する。 ・買い物をして、おつりをもらうときに、細かいお金からもらっていく。日本のお金で例えれば、538 円の買い物をして、10，000 円札を出せば、2 円→10 円→60 円→400 円→9000 円と渡される。つまり、引き算が苦手で、足し算して合計 10，000 円にしていく計算のやりかたである。
	食生活	・朝食は、パンとコーヒー等の軽食が多い。昼食は個人差があるが、時間をかけて食する習慣がある。大人も家に帰って 13:00～16:00 ぐらいまで休憩をとる。ワインも一緒に飲む。夕食も 20:00 以降で、時間をかけ、家族そろって食べる場合が多い。家族の絆を大切にしている。各家庭の伝統的な料理も存在する。 ・魚介類を生で食べる習慣はなく、地中海でとれるせいか、脂分が多い。
	衣服住居の違い	・建物は石造りで、夏は涼しく、冬は暖かい。都心部は日本でいうアパート・マンションが多い。管理人がいる場合が多い。 ・外観は新しく見えても、水回りや電気の配線などは古いも

		のが多い。大理石が多く使われているため簡単に直せないのかもしれない。 ・床が大理石であるため、部屋の中の音が響くので、時間帯によって、物音を立てないように静かに生活する必要がある。 ・室内はスリッパ等で過ごす。バスとトイレが一緒である。 ・郊外に行くと一軒家も見られる。
	交通規則の違い	・車は左ハンドルで右側通行である。路上駐車も場所によってはゆるされる。 ・交通マナーはあまり良くない。赤信号で待っていても、他に通行者などがいなければ後ろからクラクションを鳴らされ、「早く行け」と追い立てられる。バイクは、渋滞していれば、反対車線を走ることがある。
	その他	・とにかくおおらかで、小さいことは気にしない。言いたいことは、ずばずばと言う。 ・世界的にも携帯電話普及率が高く、高校生になるとほとんどの生徒が持っている。

＜参考資料＞

・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 外務省
・ミラノ日本人学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・月刊「海外子女教育」
・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
・海外日本人学校勤務経験教員より（3 名）

<table>
<tr><td colspan="2">イラン・イスラム共和国</td><td rowspan="9">国の概要</td><td>首都</td><td>テヘラン</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="8">
緑は国教であるイスラム教シーア派の色、白は平和と友情、赤は共和国憲法発布の色とされ、緑と赤の内側の模様と中央はアラビア文字である。

独立：1979/4/1
イスラム共和国成立
国連加盟：1945/10/24
政体：イスラム共和制</td><td>国土</td><td>面積　164 万 8,000 ㎢（日本の 4.4 倍）
北部はカスピ海、南部はペルシア湾に面している。中央部に盆地状のイラン高原が広がり、これを縁取るようにエルブルズ、ザクロス両山脈がのびる。国土の 55% は標高 300m以上の高原で、南側は開けていて平野が形成されている。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>6,950 万人</td></tr>
<tr><td>言語</td><td>ペルシャ語（公用語）、クルド語、アゼルバイジャン語</td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>リアル</td></tr>
<tr><td>気候</td><td>内陸性の気候で乾燥地帯である。冬のカスピ海沿岸では最低気温が－25℃、夏のペルシャ湾岸の最高気温は 50℃を超える。国土全体の年間平均降水量は 35mm、6～9 月はほとんど雨が降らない。</td></tr>
<tr><td>民族</td><td>イラン人 70% 、トルコ人 25%、クルド人 3%</td></tr>
<tr><td>宗教</td><td>イスラム教シーア派 89%、イスラム教スンニ派 10%、ゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育制度の概要</td><td>学校体系</td><td colspan="3">・小学校予科（6 歳）、小学校 5 年(7 歳～11 歳)、中学校 3 年（12 歳～14 歳）、高校 4 年、大学 4 年だが、近く 6・3・3 制に移行する予定である。</td></tr>
<tr><td>義務教育</td><td colspan="3">・義務教育の制度はない。
・9 月 22 日までに満 6 歳になっていれば小学校に入学できる。
・小学校には、全国で 95%の児童が入学する。
・中学校までは希望者は誰でも進学することができ、授業料や入学金は無料である。但し、イスラムの国の考え方で、親の収入によって寄付をすることが普通となっており、裕福な者がより多くの負担をすることが常識となっている。
・学区制はないが、ほとんどの児童生徒は居住区の学校に通学している。
・学校は男女別学で、大学だけが共学となっている。但し、教室では、前は男子用、後ろは女子用、あるいは片方ガ男子用、もう片方が女子用の席というように決められている。</td></tr>
</table>

	日本と比較した 教育課程上の特徴	・遊牧生活を送っている人々のために、移動する先々へ遊牧民とともに教師がついて回る制度も残っている。 ・また、学校施設の不足から、2 部制、3 部制になっている学校(朝のクラス、昼のクラス、夜のクラス)が普通である。 ・学校年度は 9 月 23 日～翌年の 6 月 21 日であり、2 学期制を採っている。 ・1 学期は 9 月 23 日～1 月 20 日、2 学期は 1 月 21 日～6 月 21 日である。 ・テヘラン市にある私立高校では、授業は土曜日から木曜日までの週 6 日で、金曜日が休日である。午前 7 時半から午後 2 時半まで、週に約 23 時間勉強する。カリキュラムは、数学、英語、ペルシャ語、アラビア語、科学、物理学、生物、社会、宗教、体育、道徳、歴史などで、進路学や護身術という授業もある。
	義務教育後の教育	・上級学校に進学する場合は、国が実施する統一テスト（コンクール）に合格しなければならない。その順位で入学できる大学も限られる。 ・高等学校は大学の準備段階として位置づけられ、入学時に理数、経済、人文、保健衛生の 4 つの専門分野に振り分けられる。 ・大学は 2 回実施される国家統一テストに 2 回ともパスした者だけが入学でき、そのテストの成績順に希望大学、学部が決められる。
	就学前教育	・幼稚園はそう重要視されておらず、就園率は 10%程度である。最近になってその必要性が叫ばれているが、専門の教員養成のシステムづくりや予算上の問題もあり、今後どうなるかは不明である。 ・共働き夫婦のための 1 歳児からの保育もある。
学校生活	休業期間	・夏休みは 7 月中旬から約 2 カ月、冬休みはなく、正月休みは 3 月 20 日から約 15 日間である。このほか、殉教した指導者を悼む「アーシュラー」などのイスラム教の宗教祭日がある。
	飛び級、落第の有無	・小学校では、児童が 2 年続けて合格点を取れず落第した場合、夜間部の授業に参加することになる。その割合は全体の 4%である。中学校では退学してしまう生徒が 1 割ほどいる。
	学校行事の特徴	・運動会や文化祭、修学旅行のようなものはない。

	給食	・ほとんどの公立学校には給食制度がない。私立学校ではイラン料理(ご飯、おかず、スープのセット)の給食が出るところもある。
	校則	・女子は高校まで制服を着用する。
	子どもの一日	・都市部で比較的余裕のある家庭では、習い事（楽器、習字、語学、絵画、水泳など)、家庭教師、予備校へ通うことがある。 ・小学校のころから学習塾には通わない。 ・宿題はたくさん出る。宿題には、両親あるいは兄姉が面倒を見てあげることを前提としたものもある。 ・放課後は家の手伝いをしたり、習い事に通ったりする生徒が多く、アルバイトはほとんどしていない。休日も塾の特別コースに通ったり、スポーツ、家事手伝いなどをしたりして過ごす。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・日本語の学習では、格助詞の使い方ができないことがある。
	食生活	・チャイという紅茶に似たお茶を飲みながらおしゃべりをする。チャイは普通ガラスのコップでのみ、熱ければ受け皿に少し分けてすすることもある。ミルクやレモンは入れず、角砂糖をつまんでチャイに浸して食べる。 ・キャバブという羊・牛・鳥の肉を串に刺して焼いたものをよく食べる。 ・シチューや肉料理が多いが、ナイフは使わず、スプーンとフォークで食べる。
	衣服住居の違い	・住居はほとんどレンガ造りで、細い鉄筋を入れてレンガを積んで造られる。バードギール（風をつかまえるという意味）がついている家、自然の岩をくりぬいた住まい、山の斜面を利用した家、牧民のテントの家などがある。
	交通規則の違い	・テヘランでは、市内の交通を制限するため朝 6：30 から夕方 5：00 まで、タクシーと許可された車しか入れない特別な交通ルールがある。許可証は買うことができる。
	その他	・仲がよいと男女を問わず、大人も子どもも手をつないで歩く。 ・日本では、つねることはいいこととされていないが、可愛い赤ちゃんや子どもを見るとすぐに近寄って、ほっぺをつねることがある。 ・スポーツはサッカーが人気№.１で、路地などでサッカーに

		興じる光景がよく見られる。最近はコンピュータゲームが流行しており、パズルのようなものやアクションものに人気がある。 ・日本に対しては、勤勉な技術大国、産業が発展している国という認識がある。礼儀を重んじるというイメージもある。 ・テレビの影響が大きく「おしん」や「一休さん」などが放映され、人気がある。

＜参考資料＞

・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 外務省
・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
・ハメドゥスト　テヘラン通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・テヘラン日本人学校
・Our Tehran（社会科　副読本）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・テヘラン日本人学校

<table>
<tr><th colspan="2">インド</th><td rowspan="9">国の概要</td><td>首都</td><td>ニューデリー</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="8">
中央の糸車のような紋章はチャクラといって、3 世紀のインドの神殿にある飾り物、24 の車軸は一日の時間を表し、オレンジ色はヒンズー教、緑はイスラム教白は平和を表している。

独立：1947/8/15
国連加盟：1945/10/30
政体：連邦共和制</td><td>国土</td><td>面積　328 万 7,000 ㎢（日本の 8.4 倍）
ヒマラヤ山岳地帯、ヒンドスタン平原、インド半島の 3 大地域に大別される。ヒマラヤ・カラコルム山脈はインド全体を他のアジアから遮断する形でそびえ、平均高度は 6, 600mもある。ヒンドスタン平原は、インダス川・ガンジス川によって作られた大沖積平野である。インド半島は東西のガーツ山脈が走り、大部分をデカン高原が占めている。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>11 億 0340 万人</td></tr>
<tr><td>言語</td><td>ヒンディー語（連邦公用語）、英語など憲法公認語 17</td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>ルピー</td></tr>
<tr><td>気候</td><td>山岳地帯は高山気候、ガンジス川中上流は温帯、西部のパキスタン国境地帯は乾燥気候、沿岸部とデカン高原は熱帯サバンナ気候である。モンスーンの影響が強く、冬季には北東風、夏季にはインド洋から吹き込む南西風が卓越する。この南西風の影響で西海岸やヒマラヤ山麓は多量の降雨がある。特にアッサム地方は世界最多雨地の一つである。</td></tr>
<tr><td>民族</td><td>インド・アーリア系 72%、ドラビダ系 25%</td></tr>
<tr><td>宗教</td><td>ヒンズー教 80%、イスラム教 14%、キリスト教 3%、シーク教 2%、仏教 1%、ジャイナ教</td></tr>
<tr><td>教育制度の概要</td><td>学校体系</td><td colspan="3">・就学年数は州により少しずつ違うが、基本的には、小学校 5 年（6～10 歳）、中学校が 3 年（6～8 年生）、中等学校 2 年（9～10 年生）、上級中等学校（11～12 年生）、となっている。
・上級中等学校では、科学系、商業系、人文系に分かれて学習する。
・中央政府が教育についての立法権を持つが、財政を担うのは州政府、学校の運営にあたるのは州教育省、地域の教育委員会となっている。
・幼・小・中・高の一貫教育を行う私立学校が多く、大半の子どもたちはそこに通い、高等教育を受けることを望んでいる。</td></tr>
</table>

	義務教育	・小学校と中学校の 8 年間である。 ・多くの州では特に義務ということはなく、5 歳になったら就学する。 ・途中で学校をやめてしまう子どもが多く、5 年生になるまでに約 40%もの子どもが学校に行けなくなってしまう。家庭が貧しいために、弟妹の世話や仕事の手伝いをしなければ生活していけないからである。
	日本と比較した 教育課程上の特徴	・学校年度はほとんどが 4 月～翌年の 3 月だが、1 月～12 月とする州もある。 ・3 学期制を採っており、1 学期は 4 月～8 日、2 学期は 9 月～12 月、3 学期は 1 月～3 月である。 ・私立学校（パブリックスクール）と公立学校（ガバメントスクール）があり、後者は校舎が不足しており午前・午後の 2 部制をとっているところが多い。 ・パブリックスクールでは英語による授業を行っているが、ガバメントスクールではヒンディー語で授業が行われている。 ・1 部の私立学校を除き、週 6 日制がとられ、年間授業日数は約 200 日である。 ・教育課程は原則として州の教育局が責任を負っているが国立教育研究・教員養成所は「全国共通カリキュラム」を開発し、各州の参考に供している。普通教育を中心とし、母語、算数、理科と社会科を統合した環境、表現（芸術）、保健衛生及び作業経験が主な教科である。
	義務教育後の教育	・中等学校 2 年生及び上級中等学校 2 年生の段階で全国共通テストが行われ、このテストはその後の進路決定に大きな影響がある。 ・高等教育を受けるには、そのための試験や入学後の授業が英語であることから、私立に入らないと事実上困難である。 ・大学の授業は英語で行われる。大学進学率は約 30%で、女子の進学も多く、医者や弁護士などで、女性が占める割合が多くなっている。 ・大学で人気がある分野はコンピュータサイエンスやバイオ、ビジネスマネジメント、物理・数学などで、海外に留学する学生も多い。主な留学先はアメリカとオーストラリアである。

	就学前教育	・3 歳からが対象であるが、義務ではなく、通っている子どもはわずかである。公立幼稚園はなく、私立幼稚園のみである。 ・ヒンディー語、英語、数学（足し算、引き算、掛け算）を教えている。
	その他	・スラム地区や地方では就学しない児童もいる。このような地区には、学校をつくり、教師が家庭訪問をして学校に来るように働きかけている。子どもたちには制服・かばん・学用品・お昼のおやつを政府が支給している。
学校生活	休業期間	・天候によって変わるが、冬休みは 11 月～2 月末で、夏休みは、6 月～7 月末の中で、10 日間と 15 日間の 2 回ある。
	学級担任制、 教科担任制等	・小学校の 5 年間は、学級担任が全教科を担当する。ミドルスクールに入ると学級担任と教科担任が別れて担当する。
	飛び級、落第の有無	・小学校 1 年生から進級テストがあり、不合格の場合は落第となる。 ・飛び級することもできる。
	教育内容の差異	・7,8 年生はすべての生徒が英語、数学、科学（物理、化学、生物）、社会（歴史、地理、公民）、ヒンディー語、さらに第 3 言語としてサンスクリット語、フランス語、ドイツ語からひとつを選んで学習する。コンピュータ・サイエンスも必修となっている。 ・数学に力が入れられ、掛け算九九ではなく、20×20 まで暗記する。 ・全教科の宿題が毎日出る。 ・体育の授業はない。
	学校行事の特徴	・運動会はない。
	給食	・ガバメントスクールでは、昼食を持参するところとスナックが出るところがある。 ・パブリックスクールでは、売店でスナックを売っていたり、カフェテリアがあり、食べ物を自由に買うことができる。
	チャイムや号令	・日本と同じようにある。
	教室における行動様式等の違い	・1 クラスの人数が 50 人以上なので、一斉指導で、机間指導は無理だが、子どもたちの学習意欲は非常に高い。
	校則	・男子の髪は短く、女子は特に無いが、化粧は禁止されている。

		・携帯電話の学校への持ち込みは禁止になっている。
	保護者の授業参観、保護者会、ＰＴＡ	・1 年に 1 回、授業参観がある。 ・保護者会や PTA はない。
	子どもの一日	・金曜日または土曜日が半日である。 ・学校は 10 時から 16 時までで、帰宅してからは、宿題や家の手伝いをする。
	その他	・教科書に、英語で「誓約」が載っている。
生活習慣等	宗教上の忌避事項	・イスラム教、ヒンズー教など食生活の違いがあり、給食のメニューが難しい。そのため、給食のある学校は野菜中心のメニューで、肉料理は出ない。
	指による数え方 計算方法等の違い	・指の関節で数える。（1～14 まで）
	食生活	・カレーとは料理の名前ではなく、おかず、具などの意味をもち、ほとんど毎日食べられている。
	その他	・日本のビデオゲームやエレクトロニクス関係のテクノロジー、美しい自然、寿司などの食べ物に対する関心が高い。

＜参考資料＞

・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・世界の学校を見てみよう（キッズ外務省）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 外務省
・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
・教育事情あの国この国・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全教研
・社会科副読本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ボンベイ日本人学校
・海外日本人学校勤務経験教員より
・留学生より

<table>
<tr><th colspan="2">インドネシア共和国</th><td rowspan="9">国の概要</td><td>首都</td><td>ジャカルタ</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="8">
赤が自由と勇気、白が正義と純潔を示している。白の上に赤があり、純白の上に立つ勇気いう意味を持っている。

独立：1945/8/17
国連加盟：1950/9/28
政体：共和制</td><td>国土</td><td>面積　190 万 5,000 ㎢（日本の 5 倍）
スマトラ、ジャワ、ボルネオ、スラウェシをはじめ、大小合わせて 14, 000 を越える島々からなる世界最大の島嶼国で、環太平洋造山帯とアルプス・ヒマラヤ造山帯の接合部であり、スマトラからジャワ、スラウェシにおよぶ火山帯がある。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>2 億 2,280 万人</td></tr>
<tr><td>言語</td><td>インドネシア語（公用語）、ジャワ語、スンダ語</td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>ルピア</td></tr>
<tr><td>気候</td><td>1 年中、高温の国であるが雨季と乾季があり、雨季は涼しい日が続き、朝晩は長袖の服が必要となる。乾季は日差しと照り返しでかなり暑い。日陰に入ると湿気が少ないので風は涼しい。</td></tr>
<tr><td>民族</td><td>マレー系諸族（ジャワ族 40%、スンダ族 15%、バハサ族 12%）華人系</td></tr>
<tr><td>宗教</td><td>イスラム教 88%、プロテスタント 5%
カトリック 3%、ヒンズー教 2%、仏教 1%</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育制度の概要</td><td>学校体系</td><td colspan="3">・幼稚園（3 歳～）、小学校は 6 年間（7～12 歳）、中学校は 3 年間（13～15 歳）、高校は 3 年間（16～18 歳）、大学などの高等教育（19 歳～）となっている。</td></tr>
<tr><td>義務教育</td><td colspan="3">・その年の 7 月 1 日までに満 6 歳になる者はその年の 7 月第 3 週に義務教育の第 1 学年に入学する。
・校舎等教育設備が不備なため、午前・午後の 2 部制をとっている地域もある。
・小学校と中学校 9 年間(7 歳から 16 歳まで)が義務教育期間である。それぞれの卒業時に統一国家試験が実施され、個別科目と全科目平均点について基準(10 段階評価)が設定されていて、基準点を下回ると卒業できない。もう 1 年やり直すか、社会人などを対象に各学校段階に応じて実施されている認定試験に合格しなければ上級学校へ進学ができない仕組みとなっている。
・義務教育といっても学費、教科書は無償ではない。
・貧富の差があり、学校に通えない子どもも多い。父親の仕事を手伝ったり、道で物売りをしたりしている子どもも見ら</td></tr>
</table>

		れる。
	日本と比較した 教育課程上の特徴	・学校年度は 7 月の第 3 週～翌年の 6 月第 1 週であり、2 学期制をとっている。 ・1 学期は 7 月～12 月、2 学期は 1 月～6 月である。 ・小学校では一般的な学習をするが、特徴的なのは、パンチャシラ(インドネシアの国是 5 原則；神への信仰・民族主義・民主主義・人道主義・社会正義)の教育が小学校から行われる。 ・また、小学校低学年より躾や人間関係について学びながら学校外で活動する。 ・中学校では技術や工業、農業などの実技の習得やコンピュータの授業も多くなる。 ・学習言語はインドネシア語だが第 2 言語として 33 州の各地の言語と英語を学ぶ。 ・教育カリキュラムは国家教育省できめる。 ・公立校では、授業は朝の 7 時 15 分ごろ始まり、12 時 30 分ごろに終わる。この 5 時間で 7 校時の授業が行われている。 ・小学校 1・2 年は 30 分授業で、理科と社会がなく、週 30 時間で早く下校する。小学校 3 年生からは 1 校時 40 分で、休み時間が 1 回しかない時間割になっている。各教科等の週時数は小学校 5 年生でインドネシア語 8 時間、数学 8 時間、理科 6 時間、そして、社会が 5 時間、技術・美術、健康・スポーツが 2 時間ずつである。中学校は小学校高学年と同じ週 42 時間であり、教科もほぼ同じである。インドネシア語と数学の時間が少なくなって、英語が 4 時間学ばれている。 ・それぞれの地方言語の学習、その土地でしか学べないことがらを学ぶ「総合学習」が 7 時間組み入れられている。 ・体育館やプールは整備されてなく、運動場も狭く、バスケットコート程度のスペースである。体育の授業は近くの農場で行っている。
	義務教育後の教育	・高等学校、専門学校、高等専門学校、大学がある。ジャカルタ首都特別州での高校進学率は 100%に近いが、地方では 60%ほど、大学進学率は 41%である。 ・課外授業として、日本語・ドイツ語・フランス語・中国語・アラビア語を選択して学ぶことができる。インターネットを使った教育にも重点を置いている。

	就学前教育	・就学前教育は義務ではないが、保育園(4～5 歳)と幼稚園(5～6 歳)とがあり、有名な私立校や国立校への入学は就学前に幼稚園に通っていなければ入学できないところが多い。
	その他	・宗教省が管理するマラドッサ（小学校～中学校)、プサントレン（小学校～大学）という学校も存在し、一般的な教科に加えて宗教を重視した教育（イスラムの躾）を実施し、小・中学校から全寮制での教育が行われている。 ・私立校では、カトリック系、プロテスタント系、仏教系など各宗教理念に基づいて運営されている学校が多数ある。 ・最近、統一国家試験について、「一回の試験で卒業の可否を決めるのはよくない」「生徒の日頃の学習態度や努力などが評価されていない」「学力水準の異なる都市部と地方の子どもが同一基準で評価されている」という問題を指摘する声があがっている。 ・私立校へ通う子どもの多くは自家用車での通学であり、子どもの通学に 1 台の車が使われる。学校が休みとなると、朝のラッシュは極端に少なくなることから、毎朝早く中心部にまで通学する子どもたちが多いことがよくわかる。
学校生活	休業期間	・学期中でも断食明けには 1 週間ほど休みがある。
	学級担任制、 教科担任制等	・小学校は一人の担任がほとんど担当する。 ・一部のイスラム学校（私立）では、小学校低学年から 40 人の子どもを 3 人で指導するなど恵まれているところもある。T2、T3 は、サポートしたり、ノート点検をしたりしている。
	飛び級、落第の有無	・飛び級や落第がある。
	教育内容の差異	・宗教、道徳の指導に重点がかかっている。 ・民族数 300、使用言語数 500 という多民族国家のため、さまざまな民族や宗教を認めながら国家としての統一を保つ「ビネカ・トゥンガル・イカ」（多様性の中の統一）の理念を学ぶ「国民の授業」が行われている。
	学校行事の特徴	・愛国心を育てるために、毎週 1 回、旗揚げが行われ、教師と児童生徒は全員参加し、国旗に敬礼しながら国家を歌う。 ・独立記念日（8 月 17 日）にセレモニーを行う。
	給食	・給食はなく、カンティーンや学校のそばにある屋台で購入するか弁当である。2 部制の場合は家で食事をする。 ・一部の私立校にはある。

	チャイムや号令	・チャイムは鳴る。
	教室における行動様式等の違い	・イスラムの教えに従い、学校にいる間もお祈りをする。また、学校には、礼拝する所が男女別に設けてある。 ・宿題がある。
	校則	・公立校には全国共通の、私立校には各学校の制服がある。 ・例えば小学生の場合、赤のズボン、スカート、帽子、上着は白のワイシャツ、ブラウスである。また、中学生では上が白、下が青。高校生は上が白、下が灰色である。 ・曜日によっても制服を変える。例えば、金曜日にはイスラム教徒の礼拝があるため、上下とも白の制服を着る。このため制服の費用が各家庭の大きな負担となっている。 ・学校でのピアス着用は OK である。 ・登下校時に校内で食べ物を取ることは日常的であり、咎められない。
	保護者の授業参観、保護者会、ＰＴＡ	・授業参観のようなものはない。 ・個人面談は問題のあるときに行う。 ・バザーなどの行事は開催されることが多い。
	子どもの一日	・午前の部は 6：30～11：30 まで休み時間なしに 5 時間の授業、午後の部は昼食後に登校し、夕方まで授業を受ける。登下校時や校内で食べ物を食べるのは普通で咎められない。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・各家庭内では、それぞれの部族の言語を用いるが、小学校 1 年生から学習言語としてのインドネシア語を学ぶ。また、同時に英語の学習も始まる。 ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「ウ」と「オ」を混同してしまう、「アイ」を「エー」と発音してしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	・イスラムの教えに忠実であり、ラマダンの時期にはアルコール類を口にしない。 ・イスラムの教えで、豚は食べない、さわらない、左手は不浄、頭はさわらないなどがある。
	指による数え方 計算方法の違い	・親指から小指に向けて、開きながら数える。 ・桁は 0 が 3 つずつの数え方が通常である。
	食生活	・だいたい 3 食だが、お腹が減れば食べるという感じである。 ・食事をする前に神様にお祈りし、スプーンとフォークを使って食事をするが、料理によっては手で食べるときもある。 ・食事をするときは話したり、音を立てたりすることは行儀

		が悪いとされている。 ・豚肉を一切食べず、カレールウの中に豚肉のエキスが入っていれば拒否をする。 ・断食月は日の出ている間は飲食しない。断食の時間帯も宗教省より発表されたものに従っている。 ・街路に面したところの露店（ワルンという）で食事をすることが多い。
	衣服住居の違い	・イスラムの女性は頭にクルドンと呼ばれる布を被る人が多い。お祈りをする時は更にムクナという純白の衣服をまとう。 ・一年中高温であるが、雨季と乾季では少し違っている。雨季は涼しい日が続き、朝晩は長袖の服が必要である。セーターを着ている人までいる。乾季でも、日陰に入ると湿気が少ないので風は涼しく、バイクを運転する人たちは 1 年中ジャンパーやダウンジャケットを着ている。 ・土をこねたレンガなど、石と土の家である。富裕層は床に大理石などをしき、暑さを凌げるようにしてある。
	交通規則の違い	・乗り合いバス（アンコタと呼ばれる小型ワンボックスカー）が客の求めに応じて路線のどこでも乗り降りできる。ドアは開け放したまま走るのが普通である。 ・オートバイの 2～4 人乗りも咎められない。 ・道路の横断は基本的にどこでもかまわずできる。腰の辺りに手をひらひらさせ車を静止しながら集団で渡る。 ・信号は日本と同じだが、よく壊れている。数も少ない。 ・車は左側通行である。
	その他	・8 月 17 日は独立記念日として祝日になっている。各地で様々なイベントが行われるが、代表的なイベントは木登り大会である。これは木の上に様々な商品が用意され、参加者は賞品のために競って上に登る。木にはあらかじめ油などがぬられていて登りにくくしてある。 ・子どもに人気の遊びは、ラヤン・ラヤンといい、日本の凧遊びと同じだが、空中で凧を交わらせ、自分の糸と相手の糸をすり合わせて切れたほうが負けになる。 ・じゃんけんは「スイー」といい、日本とは違って、親指が象（ガジャ）、と人差し指が人（オラン）と、小指がアリ（スムット）で勝負する。象は人に勝って、人はアリに勝って、アリは象に勝つ。掛け声は「スイー」である。

		・日本に対するイメージは、「物価が高い」「街がきれい」「文化がユニークでおもしろい」「礼儀正しい」などである。日本語の授業を受けている生徒は特に親しみがある。

＜参考資料＞

・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 外務省
・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
・インドネシアの教育事情・・・・・・・・・・・・・元ジャカルタ日本人学校　藤田彰彦
・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・SIRA キッズ
・おもしろジャンケン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アセアンキッズセンター
・海外日本人学校経験教員より